

## 平成22年度第1回愛知県生活習慣病対策協議会議事要約

【日 時】 平成22年6月7日（月） 午後3時から午後4時30分まで

【場 所】 愛知県議会議事堂ラウンジ

【出席委員】 16名（◎会長）

浅井委員、足立委員、伊藤委員、小林委員、酒井委員、◎佐藤委員、田島委員、寺沢委員、豊嶋委員、中村委員、服部（悟）委員、服部（文）委員、藤野委員、山本（續）委員、山本（楯）委員、渡邊委員

【事務局】 15名

【傍聴者】 なし

【内 容】

1 あいさつ（五十里愛知県健康福祉部健康担当局長）

2 報告事項

（1）平成22年度事業及び平成21年度第2回生活習慣病対策協議会に出された意見の措置状況について（資料1の1、1の2）

（事務局から説明）

（主な意見、質問等）

（委員）健康長寿あいち推進事業費プラス生活習慣病対策費が2億4,300万円ということだが、これは対前年度に対して減っているのか、増えているのか。また、この中で何が重点として予算配分されているのか。

（事務局）予算額については、概ね15%ぐらい減額になっている。特に「健康長寿あいち推進費」が戦略性のあるもので、もともとなかった事業を、愛知県がバージョンアップして、オプションとしてやっているもので、切込みが厳しいため査定額が入っている。フォーマルの生活習慣病対策推進事業、糖尿病事業、がん対策事業等は基本的にはほとんど同額で進めさしてもらっている。

（委員）「地域・職域連携推進事業」の中の「県地域・職域連携推進部会 年3回」について、この部会は新しいものなのか、昨年から引き続きあるものなのか。

（事務局）地域・職域の部会については、昨年度から立ち上げている。従来は独立した会議があったが、生活習慣病と地域・職域は密接な関連があるので、親会議であるこの生活習慣病対策協議会の中で総合的な意見をいただきつつ、各論においては部会を設置してそこでの議論を行っていくという構成に平成21年度から振り替えさせていただいている。

（委員）「8020（はちまるにいまる）」というのはよく聞く言葉だが、「60」や「70」についてもそういう目標値はあるのか。

(事務局)「8020運動」は御存知のように愛知県が発祥である。60歳については、「6024」と60歳で24本残す、70歳については「7021」というように各世代で目標はある。「8020」が全国的には周知されており、それ以外はあまり一般的ではないというのが現状である。

(委員)資料1-1の「健康長寿あいち推進事業のフロー」そのものは対象がだれなのか。その中に「ハイリスクアプローチ」、「ポピュレーションアプローチ」という言葉があるが、対象が医科を始めとした専門家ならこの言葉はわかると思うが、一般の人はわかるのか。「ハイリスク」はよく使う言葉だが、「ポピュレーションアプローチ」は、あまり聞いたことがない。これは一般化されている単語なのか。

(事務局)「ポピュレーションアプローチ」については、健康づくりや公衆衛生ではよく使われる言葉である。「ハイリスクアプローチ」というのは言葉どおり危険因子を持つ人に働きかけてリスクを減らしていくというアプローチであるが、それだけでは十分でないということで、集団全体に働きかけて、普及、啓発等が中心になるかと思うが、生活習慣のリスクを減らしてくという意味で「ポピュレーションアプローチ」という言葉がある。国の健康づくり対策である「健康日本21」においても、「ハイリスクアプローチ」と「ポピュレーションアプローチ」をうまく組み合わせて取り組むことが国民や県民の健康づくりにつながるといった姿勢で捉えており、県についてもそのようなスタンスで取り組んでいる。

(2) 「平成21年度生活習慣関連調査」結果の概要について(資料1の3)

(事務局から説明)

(主な意見、質問等)

特になし

## 2 議題

(1) 健康日本21あいち計画の最終評価へ向けて(資料2)

評価推進部会の設置、部会構成員の了承

(2) 今後の生活習慣病対策のあり方について

(主な意見等)

○一般的に疫学調査等では回収率6割以上を求めているが、一般の人が対象なので半分集まればいい。回収率半分で評価をするわけだが、これに答えなかった人たちがどういうキャラクターかということは評価していく場合に、気になるところである。

○がん検診に関して、いろいろな部位のがんの検診の経験があるかということと同時に職場健診やドック健診いろんな種類の検診があるが、一体どれくらい検診を受けているのか、過去5年間、あるいはこの1年間、それは、ネットでみていかないと評価できないのではないか。そのへんのところは何回でも調査しなければいけない。そうすることによって、検診の二次予防の効果評価というものもできるのではないか。

○日本の場合には、放射線治療が欧米に比べてかなり遅れているので、設備としてのインフラ整備のみならず、それに従事する人たちを整備していかないとこれそのものが発展していかないので、これに従事する医師等を強化していかなければいけないのではないか。これから日本は、がん医療に関しては薬物治療と同時に放射線治療というのは強化されていくと思うので、そういったことも検討していく必要があるのではないかと思う。そういったことを次の第二期計画に向けて進めていく。

○糖尿病も歯周病も原因となることにはかなり類似性があり共有できる部分が随分あるということがわかってきている。それから予防となるとますます近づいてくる。特に運動で、最近、がん予防の中で運動をもっと前面に出さないといけないのではないかと思っている。循環器疾患や糖尿病と重なるし、歯の衛生の悪い人ががんにかかりやすいというようなデータも出ている。この辺のところを整理して、疾患毎のものと、共有できる部分とを整理して対策を立てていく必要があるのではないかと思う。

○最終評価スケジュールについて、評価内容は各専門部会等で意見聴取、適宜行うということになっているが、循環器も糖尿病の方も疾患対策部会としては年1回しか予定されていない。評価というのは非常に大切で、おそらく第1回目のときにはいろいろな意見が出て、それに対する答えというのはすぐには出せないと思う。結局、出た意見に対してフィードバックを行って再度進めるといような機会が必要と考えるとどうしても年に2回は最低必要なのではないか。

○糖尿病対策部会を開催したが、重大な問題が出てきて、メールやファックス、電話とかもあり流動的に考えて、当事者間でよく協議していただき、そこで最終的な結果を部会長に御報告いただきたいというようなことは申し上げた。1回では伺ったということだけになってしまうので、基本的に2回開いていただくとありがたい。

○運動のことと、喫煙に関することは男女差がちょっとあったという調査の結果であった。運動に関しては、増えたということの評価して、女性は、男性が運動している間、家事をやっているので、結構運動しているというふうに理解していただいてもいいかなと。女性の喫煙に関して、男性は喫煙者がこんなに減っているのに若い女性がかえって増えている。しかし、妊娠に対してあまりいいことがないことを理解している人はいるということで、この辺のところ非常に問題である。女性にとってのストレス社会というのが今きているのかなという感じがしている。

○地味で脚光を浴びないかもしれないけれど持続的に地道にやっていくということが最終的には一番効果がある。例えばいろいろな統計をとるとき、統計は是非参加すべきだというような教育をしてもらおうというように、きちんとやっていくということが一番大事だと思う。事前に質問させていただいたが、学習指導要領に項目が結構書かれているが、繰り返し繰り返しの教育はあまりないのかもしれない。最終的には、いかに持続的に物事を理解して自分でやっていくかということが一番の問題である。愛知県だけでもいいからまじめに取り組んで地道にやっていただける方がいると非常にありがたい。

○平成21年度生活習慣関連調査の「健康日本21あいち計画」の周知度については残念だったというお話があった。私も事前に質問をさせていただいたが、啓発については努力をされているというお答えをいただいた。でも、結果がよくない。ネーミングも問題なのではないかという気がする。歯科医師会がやってらっしゃる「8020運動」、これは50%くらいが知っていらっしゃる。せっかく旗を揚げても、旗の認知度はあまり気にしなくても内容さえあればいいという考え方なのか。やはり、旗を揚げたら旗を分かってもらった方がいいのではないかと思う。

○生活習慣関連調査の調査結果で「健康日本21あいち計画」が、非常に認知度が低いということを数人の方がおっしゃっている。「ハイリスクアプローチ」、「ポピュレーションアプローチ」といったカタカナ言葉、これはここに集まっている人は専門の人だからわかる。しかしこの会は公開で県民の方がみえているから、この言葉がわからない方もいらっしゃる。だから県としても、カタカナ言葉を使うとかっこいいかもしれないが、その説明を下につけておくのが親切ではないか。県民に親しまれる言葉を使うということが、こういう調査があったときに、非常にボディブローとしてきいてくる。やはり県民レベルの言葉づかいを心がける必要があると思う。

○「健康日本21あいち計画」の認知度について、「『健康日本21あいち』を聞いたことがありますか」だとまた結果がかわってくるのではないか。「計画」に引っかけの人が多いのではないかなというのと思う。質問の仕方にもよるのかもと思う。

○「健康日本21」、これは、国レベルと、都道府県レベルと、市町村レベルと3つあり、つながっているはずだが、なかなかそこまで全部よみきることは難しいのではないか。

### 3 その他

○愛知県健康づくりリーダー連絡協議会から、DVDを配らせていただいた。今、愛知県内でいろいろな人たちに体操をやっている。その際、「愛知県は健康長寿あいち宣言をしているんですね」と言うところほとんどの方が知らない。その時に「『健康日本21』は知っていますか」と尋ねると、「聞いたことある」と言いながらも、遠慮して「知っている」とは言わない。言いにくいということもあるのかもしれない。このDVDには体操が入っている。「健康長寿あいち」の方は、本当に簡単に誰でもできるように、「愛知」とい

う「自分の身体を愛して知って」というような意味で作ってある。それともうひとつ、「脱メタボ」というのは30分間ちょうど2エクササイズになるように作ってある。30分間、部屋の中で歩くというのは嫌になってしまうと思うが、いろいろなチャレンジをしながら取り組めるものである。そのいろいろな動作を間違わずにできるようになるには、3ヵ月から5ヵ月くらいかかり、それをやっているうちにお腹がしぼられているというメニューにしてある。ぜひやっていただき、いろいろなところに御周知いただくとありがたい。

#### 4 閉会あいさつ（鈴木愛知県健康福祉部健康担当局長）